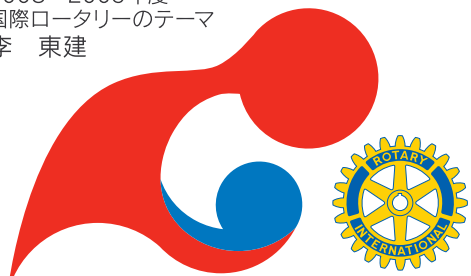


2008～2009年度  
国際ロータリーのテーマ  
李 東建



**Make Dreams Real**  
**夢をかたちに**

会長／齋藤清蔵 幹事／遠藤光一

RI第2510地区

# 留萌ロータリークラブ 会報

2008▶2009 WEEKLY REPORT

留萌ロータリークラブ会長テーマ

## 出席と参加、親睦と奉仕の 意識を高め地域に奉仕

### プログラム

- |                                      |  |                        |
|--------------------------------------|--|------------------------|
| ●本日<br>「健康促進」移動夜間例会<br>親睦活動委員会       | ●会員誕生日<br>9月14日 清水 陸<br>9月15日 鈴木 康伸<br>9月15日 松崎 裕二 | ●ご夫人誕生日<br>9月12日 松崎 和子 |
| ●次週予定<br>「新世代のための月間」にちなんで<br>社会奉仕委員会 |  |                        |

No. 2342

第10回 9月9日

出席報告

前例会

会員総数	45名
出免会員	5名
出席会員	3名
出席率	74.42%

前々会

第7回 8月20日	
出席会員	45名
メイクアップ	0名
修正出席率	100%

例会／毎週水曜 12:15～13:15 留萌産業会館2F

### 📝 会長報告 .....

- 8月31日、第28回創始者杯ゲートボール大会の開会式に出席してまいりました。社会奉仕委員会多数の皆様の出席を頂きありがとうございました。
- 9月1日第3回定例理事会並びに第2回クラブ協議会を開催し、次の事項を承認いたしました。
  - ①留萌市手をつなぐ育成会より宿泊研修実施計画の件。
  - ②ロータリー情報集の最新版のご案内の件。
  - ③留萌ライオンズクラブ49周年祝賀会の件。
  - ④9月第2例会を9日(火)の移動夜間例会にする件。
  - ⑤9月、10月の例会プログラムについて。

### 📝 幹事報告 .....

- 1) 矢橋ガバナーより8月20日の公式訪問に対して礼状をいただきました。
- 2) 第28回創始者杯ゲートボール大会の礼状をいただきました。
- 3) ガバナー月信第3号が届いております。理事・役員に配付いたします。
- 4) R I 2510地区国際奉仕委員会だよりが届いております。各テーブルに置いてありますので目を通して下さい。
- 5) R I 2510地区社会奉仕委員会ブロック意見交換会中間報告が委員長宛に届いております。社会奉仕委員会にお渡しいたします。
- 6) 深川RCより9月例会の案内が届いております。

## 第9回 9月3日(水) 天候/雨

会報受領先

- ・深川 R C No2414号～No2416号
- ・芦別 R C No2461号～No2463号

### 委員会報告 .....

例会運営委員会 高田委員

次週例会は移動夜間例会として9月9日(火)午後6時30分、ぶるも2階にて開催されます。

6時30分点鐘、例会の後食事をとって頂き、7時よりぶるも職員(コーチ)の卓話が15分ほどあり、点鐘。その後トレーニングルームにてストレッチ運動や、会員にあった健康運動を行なって頂きます。家族の方も参加自由ですので、奥様、子供と一緒に家族で運動をしていただけたらと思います。なお水泳もOKです。参加者はスポーツジャージ、運動靴、スポーツタオル等を各自持参してください。スリッパ、はだしでも結構です。解散後はみんなで冷たいビールでも如何でしょうか。多数の参加をお願い致します。

### 3分間情報 .....

会員研修委員会 田中委員

『四つのテストの新しい解釈』

四つのテストが作られた経緯やその内容については、すでに数多くのロータリアンが紹介していますが、今回は、どのように解釈すべきかについて考えてみたいと思います。現行の「四つのテスト」は、東京クラブの本田親男氏の翻訳によるもので、1954年以来、日本人ロータリアンが座右の銘として親しんだ名訳ですが、その一方で、ハーバート・テラーがこのフレーズを作った意図が完全に翻訳に反映されているか否かについて、疑義を抱いている人も多いようです。そこで今回は、この四つのテストの邦訳について問題提起をしてみたいと思います。

まず最初に考えなければならないことは、この四つのテストは、決して事業の倫理基準や商道德を高めることを目的に作られたものではなく、倒産の危機に瀕していた調理器具メーカーを再建させるために作られた、極めて現実的な

基準だということです。すなわち四つのテストというのは、商取引をする当事者同士が納得づくで取引できる基準を示したもので、社会で一般的に適用するとは限りません。

よく、癌の告知や死期の告知に四つのテストを適用すべきか否かとか、醜い女性に、正直に醜いと告げるべきか否かと言った議論をする人がいますが、四つのテストはあくまでも商取引にのみ適応するように作られた基準であることを忘れてはなりません。商取引はシビアなものですから、それを厳密に判定する基準が必要ですが、一般の生活に夢や希望を与えるためにつくささやかな嘘は、人生の潤滑油として必要不可欠なものなのです。

<http://www1.odn.ne.jp/~caz52570/b07jp.htm>

ロータリーの源流(田中 毅PDG)より

#### ■お知らせ■

第11回源流セミナー

9月20日(土) 13:00

札幌センチュリーロイヤル・ホテル

会費 3,000円 懇親会 8,000円

連絡先 関堂勝幸会員(札幌東RC)

e-mail [sekidoh@hyper.ocn.ne.jp](mailto:sekidoh@hyper.ocn.ne.jp)

### ニコニコBOX .....

- ・7月8月会員の皆様のご協力により無事終了  
9月もどうぞよろしくお願い致します

齋藤会長

- ・次年度ガバナー補佐に指名されました 健康  
に留意して任務を全うしたいと思います

田中会員

- ・先週の例会で勘違いにより迷惑をお掛け致しました 8月に孫が誕生いたしました

遅くなってきた男

- ・麻雀大会優勝 鈴木会員

- ・麻雀大会1位 次回の大会多くの参加願います 中川会員

- ・河部会員から写真いただきました

佐藤(寛)会員

前 回 268,000円

今 回 18,000円

累 計 286,000円

## プログラム……………

(先週の続き)

### 第4班 森(幹)会員

第4班は8月21日いちばんかんにて原田リーダーのもと11名の会員で開催されました。



会員増強については、会員増強がこのままではいけない事は皆がよく知っている。一步踏み込んだ募集活動。会員候補者のリスト作り、候補者にアプローチしたが入会がなければその後の追跡が必要で、通年経過履歴を作成し、次年度会員増強委員会に引き継ぎ、持続性を持つ事が必要で今回の情報集会を良い機会として、会員研修委員会と会員増強委員会で協力し合っ

て会員増強対策システムを作っていたきたい。留萌ロータリークラブが必要とする会員は何人かと算出してみると、日本のロータリークラブの平均会員数は42名。北海道のロータリークラブの平均会員数は38名。人口対比では日本国民の0.08%、北海道民の0.10%となります。留萌市民25,600人とすると、会員数は約21人~26人となります。留萌ロータリークラブの委員会活動を現在の規模で維持すると、会員の出席率80%として活動予算から算出される最低会員数は58名は必要と思われます。そのためにも会員候補者は、留萌に限らず、増毛町も範囲に入れて、水産関係など他に抜けている業種、業界も視野に入れ会員増強に対応していかなければ、ならない。

会費を140,000円とし、例会ごとに会費を集める等の方法もあるが…。女性会員等の話もありましたが、われわれのグループ内では特に議論は進みませんでした。

#### ■ 例会運営のあり方

ことある毎に「広報留萌」や「地元紙」を介してロータリーの活動内容を多くの人々に知らせ、“何をしている団体”から、“こうゆう事をしている団体”と認知いただくことも必要な時期に来ているのではと思う。

3分間情報は隔週ではなく、留萌の伝統としてまたシンボルとして存在しているので、ぜひ

毎回行なっていただきたい。

ロータリークラブの伝統の一つにNOは無いぜひこれを守ってほしい。最近少し変わってきているのが、残念である。RCにはNOが無いこの意味合いを再認識頂きたい。

ロータリーのバイブルとしての手続要覧は全会員が持ち、理解すべきものである。書かれている内容を知っていただきたい。そのための勉強会があっても良い。予約受付の時期が過ぎてい

と思われるが、早急に全員配布の対応をいただきたい。

~~~~~

### 「我が生い立ち」

松崎祐二会員

私は1950年(昭和25年)9月15日午前4時すぎに、空知管内上砂川町で二男一女の次男として生まれました。あと2週間少々で58歳になります。父は



所謂、樺太引揚者で、樺太の真岡で役場勤めをしており、軍関係の仕事をしていましたが、終戦により祖父が三井砂川鉱業所に勤務していた関係で上砂川に戻り、上砂川町役場に定年まで勤めました。母は師範学校を卒業後小学校や中学校の教員をしていましたが、父と結婚し長男出産により一旦退職後、しばらく専業主婦をした後、子供に手が掛らなくなった頃、再度上砂川の中学校に勤務し、数年間国語や音楽を教えていたそうです。両親とも大正9年生まれで、あちこち痛いと言っているわりには元気で、このまま何もなければ、今年中に88歳の米寿を迎えます。

私には兄と妹が居りますが、母親の影響から二人とも教育関係に進んでおり、兄は岩見沢東高校の校長、妹は由仁町の三川小学校の教員をしております。盆や正月等に実家に集まると学校の話が出で来て、いじめの話や最近では教員採用試験の不正問題等の話が出るくらいで、こちらは傍観者を決め込んだり、第三者の立場でいる事が多くなかなか話がかみ合いません。

私の年代はいわゆる団塊の世代に入るか入ら

## 第9回 9月3日(水) 天候/雨

ないかの微妙な年代であります。団塊の世代という言葉は皆さんもご存じの通り、作家堺屋太一が著書の題名に使った事からきており、堺屋自身はこの原書の中で何年から何年までと定義しているかと申しますと、1947年から1949年の3年間に生まれた世代を言うとしています。ただ一説には1953年生まれまでで、または1955年生まれまでを指す場合もあるという事で、一応私も団塊の世代であるとしておきます。

中学校3年まで上砂川町で過ごしましたが、小学校時代、当時町内には小学校が4つもあり、一クラス45~50人の生徒がいてそれが6クラスもありましたので、軽く1,000人を超える小学生が一つの町にいた事になり、まさしく団塊の世代なのだと思います。小学校の6年間は少年野球チームに所属し、中学校の3年間は卓球部ともっぱら球技をやり、冬場は近くが山ばかりでしたので、スキーを担いで滑りに行ったりとスポーツ少年と言える位スポーツを楽しみ、また、裏の小川や沼で釣りをしたりと結構遊んで暮らしました。

当時の上砂川町は、三井砂川、三井や三菱の芦別、三井美唄、北炭空知など空知や夕張炭田としてフル稼働している状態でしたので、活況を呈しており、炭鉱関係者が多く住んでおり町にも賑わいがあり、夏祭りのときには沿道に出店が多く出て、往来する人で道が通れないくらい状況でもあり、ピーク時の昭和25年には世帯数6,000、人口32,400人を数えていました。これが、エネルギーが石炭から石油へ転換されるに伴って鉱山の閉鎖が相次ぎ、最近時の平成20年7月末には2,000世帯、4,200人まで減少しています。

昭和41年4月に砂川南高校に入学しましたがこの年父親が住宅を建てた関係で、上砂川町から砂川市へ転居いたしました。現在も両親はここに住んでいます。父親は砂川市から上砂川町へ通勤をする事になったわけで、このあたりで例えれば留萌市に住宅を建て、小平町や増毛町に通勤をしていたみたいなのです。当時は相当周囲の反発もあったと思いますが、父は住宅を建てるなら砂川市と決めていたようで、周りの批判にもじっと耐えていたようです。昭和44

年に高校を卒業し大学受験をしたわけですが、この年は安保闘争を主とした学生運動が活発化していた年で、東大闘争、全共闘といった大学をバリケードで封鎖するような運動を展開し、東大の入試が取り止めになった年でもあり、そのせいがあったかどうかは知りませんが、北大受験を失敗した私は、浪人することなく東京経済大学に進学いたしました。

この大学は東京と言っても中央線沿線の国分寺市にあり、都心から電車で40~50分かかるかなり離れた所にありました。小平市に2年間、武蔵野市に2年間暮らしまして、その間大学の授業に出るより、アルバイトに精を出す不真面目な、ある意味親孝行と言いますか、日本育英会の特別奨学金を受けながら、あまり仕送りに頼らない学生生活を送りました。

アルバイトの話をしていきますと、色々やりましたが、山崎製パンの東村山工場のバイトは、夜8時から朝の6時までの夜間、配送車に製品を仕分けて詰め込む作業で、配達コースの小売店毎にプラスチックの籠に何段も重ね、注文されたパン類等を詰め込むという作業を夜中中する厳しい仕事の反面、余った製品は持って帰ってもいいという、おいしい所もありました。寮の皆にも喜ばれました。また伊東市でのバイトは競輪場の警備の仕事で、ほとんど立っているだけの簡単な仕事ですが、それでも一日中立つての仕事ですと足がかなり痛くなりました。そんなバイトでも静岡県に近い場所でしたので、夜中に起きて近くに夏みかんの畑が沢山ありましたので、いたるところに実がたわわに実っており、無断でいただいたりいたしました。その他、建設作業員としては慶応大学の日吉校舎を作ったり、映画のエキストラとして「超高層あけぼの」に出演したり、他の映画ではただの通行人をやったりし、また喫茶店のウェイトerをやったりと、色々な職業の一部をかじれた事が、今になって他人の商売を見る上でも生きています。

小平市の2年間は学生寮で過ごし、一部屋に4人、両サイドに2段ベットのごく狭い部屋でしたが、私の部屋には山口県先輩、島根県と宮崎県の同期がおり、隣の部屋には大分県、熊

本県、長野県、茨城県など全国各地から集まってきており、学生時代に同じ釜の飯を食べたという事で今も交流があり、会う機会はめっきり減りましたが、電話で話すときなどはその地方の方言を楽しく懐かしく思ったりします。

昭和48年に大学を卒業しましたが、前年の10月頃に大学の就職指導課に留萌信金の求人募集札が掛っておりました。その当時北海道からの採用募集は留萌信金の他は札幌トヨペット以外はあまり知らない所でしたから、留萌信金と札幌トヨペットに応募しましたが、札幌トヨペットは総務部長がわざわざ当時私の住んでいた東京のアパートまで訪ねて来て面接するといった事で、売り手市場でもなかったのに逆に妙に気味悪く、私の方から断りました。残った留萌信金を選んだ訳ですが、上砂川の山奥で育った私には、留萌という地名は夏の海水浴で行った程度しか知りませんでしたが、東京で4年暮らして、北海道に戻って就職したいという思いがありましたので、最終的に留萌信金に就職したという理由になります。運良く筆記試験、面接試験に合格し、その年の3月に留萌信金に就職したのですが、面接の時「どうして留萌信金に就職したのですか」と聞かれ、まさか他の1社が気味が悪くてとか、海水浴で来た事があるなどとはとは言えず、「銀行とは違った地域に密着した金融により貢献したいから」と言ったことを覚えています。

留萌信金では駅前支店勤務を振り出しに、留萌市内に通算23年、苫前に2年、旭川に10年勤務しました。この間、昭和57年の沖見支店、昭和63年の旭川のあたご支店では、開設準備副委員長として開設までの段取り、店舗・備品・調度品等の決定・発注、新規顧客開拓のローラー訪問等様々な苦労はありましたが、今振り返ると両支店とも業績を伸ばし、地域の皆様のお役に立っている事を考えると感慨深いものがあります。

自己紹介の時とか、様々な機会に趣味の話がでます。私の場合これが好きだとか、これに打ち込んでいると言うものがあまり無く、他の人が何々をしているとか、何々が好きだという事を聞くと羨ましく思います。そんな中でも趣味

といえるかどうかわかりませんが、スポーツに関係した事で言えば、留萌信金に入ってからのお話になりますが、留萌信金にはクラブ活動は野球部しかありません。小学校の時に多少野球をやっていた関係で、就職してから何かスポーツがやりたくて、野球部しかありませんでしたので野球部に入部いたしました。入部した昭和48年当時は、留萌信金は留萌軟式野球連盟でA、B、Cと3クラスある内のCクラスでした。Cクラスは加盟チームが多く、試合数も結構多くて、また当時は部活に対する職場の考えもおおらかで、1日の内に朝野球をやって夕方4時半位からは、たそがれ野球をやることもございました。私の場合、投げるのはそれほど速いと言う訳でもありませんでしたが、コントロールが良かったせいで、ピッチャーをやる事になり、一応エースとして活躍、試合数も多かったせいもあり年間23勝という記録は未だ破られておりません。お陰様で、CクラスからBクラスに昇格し、その後Aクラスに昇格致しましたが、現在では試合数も減り、あまり活躍しているという話は聞いておりません。今、野球はやりませんが観戦するのは好きで、以前根っからの巨人ファンだったのですが、日本ハムファイターズが北海道に来てから日本ハムファンに変わりました。この間も旭川スタルヒン球場での西部戦があり、家内と一緒に観戦してきました。とりあえずこれを趣味と言っておきます。

昭和52年に現在の家内と一般的には社内結婚と呼ばれております現地調達をしまして、家内は4歳年下ですが一男一女を設けております。長男は旭川の民間会社に、長女は札幌の民間会社に就職し、長男は2年前に結婚致しましたが長女はまだ独身で、早く孫の顔を見たい年頃になりましたがまだ兆候すらありません。長男の会社はこの間大きく報道され皆さんもご存じかと思いますが、旭川の北野組という建設会社で破産手続きに入っており、解雇されました。北見工大を出て、8年勤務しましたが、まだ再就職先も決まっておらず、かわいそうですが再就職先が決まった人は一部で、ほとんどの人が決まっていないのが現状だそうです。ただ、1級土木建築士の資格を持っていますので、再就職

## 第9回 9月3日(水) 天候/雨

には有利だというのが唯一救いといった所です。どなたか良い就職先がありましたら宜しくお願いします。

私も社会に出てから通算すると36年目を迎えます。この職場も定年まであと2年半と残り少なくなってきました。今までの自分は何をしてきたのだろう。何か社会に役に立つことをしたのだろうか。新しいお客様を開拓したり、企業や個人に融資をしたり、前からの取引を深めたり、そうやってきた事が、どれだけ社会に貢献してきたのだろうと考える事があります。建設業であれば建物や道路を作るとか、製造業の人であれば料理や食品の加工・製造をしたりとか、そういった仕事には創造性があります。出来上がった実感があると思いますが、この業種には何かを作ったという実感が少ない職業です。ただ自分の担当した企業の業績が良くなったり、業務内容を拡大して規模が大きくなったり、その企業のネームバリューが上がったりすると自分のことのようにうれしくなります。

この歳になりますと、健康のことが気懸かりになってきます。あっちが悪いとか、こっちが悪いなどと年齢と共にまったく健康だという事は考えられなくなってきます。私の場合、旭川にいた時の平成13年10月に「出血性胃潰瘍」で血を吐き、救急車で市立旭川病院に運ばれました。この時は、1週間くらいで退院いたしましたが、精密検査の結果「潰瘍の下に悪い細胞がある。幸い早い発見だから取ってしまった方が良い。」と言われ、早い話が早期の胃ガンという事で、晴天の霹靂とはこの事で、まさか自分がガンになるとは思ってもみませんでした。ただ入院してみると結構いるのです。肝臓ガンがあちこち転移している人、食道ガンでノドに管をさしている人、肺ガンで放射線治療をしている人など、同じ部屋に何人も居り、自分はこれでも軽い方だと考えていました。手術は平成13年12月に市立旭川病院で沼田外科医の執刀により胃の3分の2を切除いたしました。しばらく順調でしたが、2年位してから胃液が逆流してきて気管に入り、頻繁に肺炎を起こすようになりました。残った胃に小腸をつないで袋状にしていたのですが、それが原因だという事もわかり

ました。市立病院の外科医はなかなか手術をしたがらない医者で、少し様子を見ようと慎重派みたいでしたが、こちらとすれば相当具合は悪く、肺炎ですので熱は出るわ、咳が出て震えがくる、冷や汗は出るでこちらも困り、担当の内科医に相談した所、旭川医大に知り合いの外科医がいるので相談したらという事になり、今はやりのセカンドオピニオンというものをお願いしました。そうすると医大の医者はすぐ手術しなければだめだという事になり、平成18年7月に胃の全摘手術を受けました。胃の手術で一番困ったのは、食べたものがすんなり入っていかずノドつまりをすることです。そうすると吐き気はするし、そのあと一切食べ物は入っていかなくなります。そのお陰で、ピーク時に78kgあった体重もひどい時には50kgを切るところまで行きました。現在はかなり良くなりまして、60kg前後を行ったり来たりしております。ですからメタボを気にしなくても良い貧相な体型になってしまいました。血圧もかなり改善され、昔は上が140台下手すると180台になっておりましたが上が100台に、下も100あったのが60台に安定しております。血圧の高い人は体重を落とされるのが効果的だと思います。

大分時間が経過いたしました。私の現在挑戦中のものを皆さんにお知らせしまして最後にしたいと思います。現在挑戦しているのはロータリーのメンバーで既にこの資格を持っている方がいらっしゃると思いますが、「宅地建物取引主任者」いわゆる宅建の資格です。この資格を取ろうと思い、今年1月から勉強を始めました。仕事の関係上、不動産の売買、賃貸等の契約に関わったり、それに関する法令の知識が必要だったり、今更とは思いますが朝4時に起きて6時までの2時間程度毎日勉強に励んでおります。50も半ばを過ぎ60が目の前に迫ってきますと覚えるより忘れる方が多く、大変苦労しております。10月19日の全国統一試験まであと1ヶ月少々、全国で20万人受験して合格率15%という難関ではありますが、頑張って12月にはニコニコBOXに入金したいと思っています。大変くだらない話をしてしまいましたが、これで終わります。ご清聴ありがとうございます。